

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	ファミリーケア
事業所名	グループホームいまづ
所在地	愛媛県松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	平成 28年 5月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 6月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が理念である「温」を目指し家庭的なぬくもりのあるサービス提供出来る様に日々努力をしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスやサービス付高齢者住宅等がある複合型の施設の2階部分が事業所になっている。各ユニットの入り口は開放されており、ユニット間も自由に入出りができる。職員は理念に「温」を掲げ、「目配り、気配り、こころ配り」を目標に、利用者が温もりを感じるケアに努めている。近くの幼稚園と交流があり、事業所で行われる夏祭りには地域の方が多く参加している。事業所では手作りの料理を楽しんでもらいたいと考え、各ユニットで調理をしている。医療面では、3か所の協力医療機関と連携が取れており、利用者や家族は安心して適切な医療を受けることができている。職員は事業所内外の研修に積極的に参加してサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいまづ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)
氏名 河野 亜紀

評価完了日 平成 28年 5 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員一人一人が理念に沿った暖かい介護の実現に向け申し送り等にて理念を共有し日々のケアにあたっている	
			(外部評価) 開設当時からの理念を大切に継承している。理念は、玄関やユニット内相談室等に掲示しており、誰でも見ることができる。理念の「温」の一字には深い思いが込められており、職員は理念に沿って「目配り、気配り、こころ配り」という職員目標を掲げて具体化し、利用者が温もりを感じて過ごしてもらえるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼稚園との交流、近所のお祭り、奉仕活動等、地域行事に参加したり、買い物は近所のスーパーを利用させていただくことで日常的に関わっている	
			(外部評価) 散歩をしていると近所の方が声をかけてくれたり、事業所開催の夏祭りに地域の方が多数参加してくれるなど、関係が深まっている。近くの幼稚園のひな祭りや運動会に招かれて交流しており、利用者の楽しみとなっている。また、事業所は「シニアまもるくん」として地域の相談所になると共に、福祉避難所としての指定を受け、地区合同災害避難訓練にも参加して協力体制づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方に対し、法人内に防災士を中心に防災活動に参加したり災害時の避難施設にもなっている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1回定期的に開催し事業所内の取り組み報告や、松山市介護保険課、包括支援センター0との意見交換や相談をしたり助言を頂いたりしている。会議記録を職員に閲覧してもらいサービスの向上に努めている	運営推進会議で得られた助言をもとに、地区民生委員や町内会長、公民館長、夏祭りに参加している地域の方等に重ねて参加を依頼し、今以上に情報交換や相互理解が深まる会議になることを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や地域住民、市や地域包括支援センターの職員等が参加して、2か月に1回開催している。会議では事業所の近況や行事報告を行うほか、職員の研修報告を行って意見交換をしている。管理者はより多くの家族や住民の参加について、会議の議題として取り上げ、助言を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) GH事業所連絡会に参加したり運営推進会議の際に報告、相談している。困った事例の際は随時、松山市介護保険課に報告、相談し助言をもらうようにしている	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の状況を知ってもらっているほか、気軽に連絡を取れる関係づくりをしている。地域包括支援センターが開催する事業所連絡会に参加して情報交換を行ったり、困難事例について相談し、協力して支援を行うなど連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人内研修や事業所内研修として勉強会を行い、カンファレンスや申し送りを通じて身体拘束廃止について話し合いの機会をもっている。また、事業所内にはマニュアルがあり閲覧できるようになっており禁止の具体的な行為の正しい理解や身体拘束をしないケアに取り組んでいる	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてのマニュアルを作成し、年に1回勉強会を行って職員全員が理解を深め、その実践に努めている。外部の研修にも参加し、職員に伝達して共有している。転倒の危険が予測される利用者には、センサーマットを活用して危険を回避するよう工夫している。また、日中玄関は開放しており、ユニット入口にセンサーを設置して見守るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人枚研修や事業所内研修を実施している。事業所内でのミーティングやマニュアルの閲覧などにより虐待防止について理解を深め虐待防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在該当される方はいないが必要と思われる場合は職員に説明し理解を深めようとしている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に入院、退去、利用料金、加算、看取り（延命、救急時）についてホームの方針をご本人、ご家族様に説明し納得を得るようにしている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には訪問時や電話などで日々の生活の様子を報告し相談できる関係づくりに努めている。利用者様や家族様等の意見・要望を運営に反映できるよう努めている	
			(外部評価) 面会時に職員から声をかけて家族に状態を報告し、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めており、出された意見には迅速に対応している。また、毎月担当者が利用者の様子を手紙に書いて家族に送るほか、面会になかなか来られない家族には電話で近況を報告し、家族関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回全体会議を実施しており職員の意見を聞く機会を設けている。またその時々には職員の体調や困っている事の話しやすい関係、信頼関係づくりに努めコミュニケーションを密にし要望や不満を聞く環境を整えている	
			(外部評価) 月1回開催する全体会には職員全員が参加することを原則としており、意見や要望を伝える機会となっている。ケア内容についての提案等は都度各ユニット主任に伝え、ユニット会でも意見交換ができています。管理者は年2回個人面談を実施し、悩み相談にのったり、意欲向上につながるよう配慮している。事業所は計画的に研修を行い、資格手当等就労環境を整えており、職員も意欲的にスキルアップに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回評価シートを活用しグループ目標・個人目標・半期の取り組みを個々で設定し目標達成に向けての日頃の努力や具体的な成績について評価する様にしている。また休みや有給休暇についても希望を受け入れる休暇を取っている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外の研修に積極的に参加する様に促している。法人内研修については月1回開催し職員の知識や技術の習得に努めている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社会福祉協議会・地域包括支援センターが開催する研修に参加し同業者との交流を図るように努めている	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの生活歴や現在の状況・要望など細かく聞き取りをし本人様に安心して生活して頂ける関係づくりに努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に可能な限り話し合いを行い現在の状況…要望等を聞くようにしている.入居後も面会時などに話しが出来る機会を作りアセスメントを十分に行い暫定プランに反映できる様にしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問でのアセスメント情報をもとに職員間で話し合い、本人様・家族様等の実情や要望の把握に努め事業所として出来る限りの対応に努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアする側・される側という観点は持たずみんなで協力し共に生活しているよう心掛けている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の生活の様子を来訪時や電話や手紙で報告し相談しながらケアを行っていく事で家族の方にも協力をしてもらえよう働きかける	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の家族様が近所に暮らしている方もおり面会定期的に来てもらえている。 (外部評価) 地元の方が多く入居しており、近所の方や併設事業所で知り合った方などが訪ねて来たり、家族と一緒に外出し理容店や美容院などに行く利用者もあり、家族の協力を得ながら馴染みの場所等と関係が途切れないよう支援している。また、併設事業所で行事がある際は出向いて交流しており、馴染みの関係が築けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 寝たきりで離床出来ない方を除きおやつや食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむことが出来る様に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用が終了した場合も必要に応じその後の相談に応じる体制をとる様にしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で言葉や表情から把握するよう努めている。また本人様が「どうしたいか」を確認し選択して頂けるよう支援している	
			(外部評価) 入居時に思いや意向を聞き取るほか、日頃の会話、表情や行動等で把握するよう努めている。また、新たに得られた情報は、介護記録に記載して申し送りやミーティング等で伝えて職員同士で共有している。職員は、利用者の意向を尊重し反映されるよう声かけに努め、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問や入居前の担当ケアマネからのアセスメント情報をもとに今までの生活歴や現在の状況・サービス利用に至った経緯を把握する様努めている。また入居後もそれまでの生活にそって日々の暮らしが出来る様に支援している」	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝バイタルサインのチェックを行いその日の体調や状態を把握し各利用者にあった声掛けを行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様・家族様の要望を踏まえ職員間で課題やケアの在り方についてカンファレンス	
			(外部評価) 利用者の担当を決めており、話し合っ介護計画を作成している。介護記録に介護計画の実施状況を記録し、毎月モニタリングを行って、職員全員が把握して共有しているほか、利用者の状態の変化に応じてその都度介護計画を変更し、3か月に1回見直している。また、介護記録は困難事例等に対し、職員間で話し合い協力しながらケアを行っている様子がよく分かる内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子の変化を生活記録に記入している。また、職員の対応も記入する様にしており対応の見直しに反映させるようにしている。申し送りノートにも記入し職員間での情報の共有に努めている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズに応じて検討・対応できるよう努めている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) GH事業所連絡会に参加したり運営推進会議の際に報告、相談している。困った事例の際は随時、松山市介護保険課に報告、相談し助言をもらうようにしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 今までにかかっていた医療機関に引き続き通院している方も いるが、特に指定のない方は本人、家族様と相談の上、3つ の医療機関から選択して頂き往診にて対応している (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きるが、ほとんどの利用者が3か所の協力医療機関をかかり つけ医とし往診している。また、それぞれのかかりつけ医と 医療連携が取れているほか、訪問歯科診療も利用でき、利用 者にも喜ばれており、家族も安心している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を配置している。毎日バイタルサインをチェックし健 康状態を把握し支援を行えるようにする。また、看護職と介 護職の連携を密にし報告・相談が出来る様にしている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は情報提供書を作成し医療機関に提出している。入院 後は定期的にお見舞いに行きご家族様と連携を取り合ったり 入院先とも電話等で連絡を取り状態把握に努めている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人様・家族様に意向を伺い重度化や終末期に対す る方針を説明している。状況に変化が起きた場合は家族様・ 主治医と話し合い方針決定し職員に伝達しチームケアに努め ている (外部評価) 終末期のケアについて利用者と家族には、在宅医療に熱心に 取り組むかかりつけ医と連携し、利用者の状態の変化に応じ て話し合いながら最善のケアを行うことを説明し、入居時に 同意を得ている。また、管理者は職員研修にも力を注いでお り、看取りの経験のない職員の不安を払拭し資質が向上する よう努めている。	最近容態が急変した利用者が相次ぎ、管理者は職員教 育の必要性を痛感しているが、終末期はそれぞれ違っ た対応が求められるため、終末期のケアについて職員 教育を継続して行うとともに、急変時の対応等につい ての研修を行うなどスキルアップに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 法人内研修で定期的に救急法の勉強会を行い急変や事故発生時に備えて技術の習得に努めている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て年2回防火・避難訓練を行っている。また、法人からも地域の防災訓練に参加している。警備保障会社とも連携している。災害にお備え備蓄リストの作成や定期的に業者の方に設備の点検に努めている	
			(外部評価) 年2回消防署立ち会いのもと併設事業所と合同で避難訓練を実施しており、近く夜間想定避難訓練を実施する予定である。また、防災士の資格を持つ職員が、地域防災士の集まりに参加しており、地区合同災害避難訓練に参加するなど協力関係を構築しているほか、福祉避難所の指定を受けているため、地域避難者分を含めた備蓄品を整えているが、十分ではないので今後はさらに充実させることを考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉づかい・接遇マナー等の現任研修を行い法人の理念である「温」＝暖かいケアを目標に利用者様のプライバシー保護や尊厳を守りながら日々のケアに取り組んでいる	
			(外部評価) 毎年内部研修のテーマに設定しており、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないケアに努めることができている。入浴時同性介助を希望する利用者には、職員を交代したりオムツ交換は居室でドアを閉めて行うなど配慮しているほか、言葉遣いや接し方にも留意し、不適切だと気が付いた時は互いに注意し合うようにしている。また、ケース記録等は書庫に厳重に保管するなど、個人情報の保護は徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の発言・表情や反応と注意深く観察し、いくつかの選択肢を用意してその中から選んでもらえるようにしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日に大まかな流れは決まっているがその日の体調や状態をみてご本人の希望や自己決定を優先しての支援を心掛けている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問の美容室利用の際、個人の希望でカットやカラー、パーマなどあててもらっている。訪問の美容室以外にも、自身が行きたい美容室に外出できるよう支援している。 自身で判断できる利用者様には、自分で選んだもの・気に入ったものを身につけて頂けるよう個別に支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭き等できることをしていただいている。食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむことができるように配慮している。	
			(外部評価) 事業所では手作りの料理を楽しんでもらいたいと考え、各ユニットで調理をしている。利用者の希望を聞いて、職員が交替で献立を考え食材の買い物をしている。また、利用者の状態に応じて食形態を変える等の工夫をしたり、拒食傾向のある利用者に対しては、食事中はずっと寄り添うなど丁寧に接している。食事介助を必要とする利用者が増えているため、職員と一緒に食事をするのが難しくなっているが、ゆったりと和やかな雰囲気のある食事風景は保っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々にあった量や形態で食事を提供している。また、食事・水分摂取量を記録し、水分・栄養状態の把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自身でできる利用者様には声掛けにて行ってもらっている。 口腔ケアは起床時・食後・就寝前に行っている。 (義歯は洗浄している。)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの身体状態・排泄パターンを職員が把握し、時間を見ておむつ交換・トイレへの声かけやトイレ誘導を行っている。可能な利用者様にはできるだけトイレでの排泄を行えるように支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中はなるべくトイレで排泄できるよう支援している。夜間見守りを必要とする利用者には、トイレまで付き添って介助を行い、おむつを使用している利用者には睡眠をさまたげないよう適切な排泄用品を選択する工夫をしている。また、排便回数等もチェックし状態を把握し、医師と相談の上服薬支援を行うなど便秘にならないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事において食物繊維の多い食べ物をなるべく多く提供できるように心掛け、水分摂取量にも注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日や入浴時間の希望などきくようにしている。また、その日の体調・利用者様の心情に合わせて入浴日を変更できるようにしている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週2回を基本として入浴できるよう支援しており、その日の利用者の体調に応じて入浴日を変更したり、同性介助を希望する場合は対応するよう配慮している。浴槽への移動が困難な利用者は福祉用具を活用したり、2人体制で介助を行なうなど、安心して入浴できるよう支援している。立位がとれない利用者は1階デイサービスの機械浴を利用することもできる。また、お風呂が苦手な利用者には無理強いをせず楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう気を付け、できるだけ日中は臥床していただきながら、個々のペースで居室で休息がとれるように配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋ファイルを全利用者様分作成し、状態の変化がある場合には、主治医へ相談し指示を仰ぎながら薬の調整を行うようにしている。薬の内容が変わったときは申し送りノートに記入し、職員全員で情報共有できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) コミュニケーションを大事にしながら、可能な利用者様には食器の下膳や洗濯物などに参加して頂き、役割を持つことで日々の生活に張り合いが持てるように配慮している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望により家族様と外出・外泊できるように支援している。季節に沿った外出行事（お花見等）を行っている。 (外部評価) 事業所周辺には神社があり、天気の良い日は近所に散歩に出かけることが多く、顔見知りになった近所の方が声をかけてくれる。利用者の重度化がすすみ、全員参加での遠出は難しくなっているが、季節の花を楽しむためグループに分かれて出かけるなど利用者全員が外出できるよう支援している。また、喫茶店、回転寿司や買い物等にでかけたり、家族が付き添って外出するなど利用者の要望に応じて出かけられるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様の了解のもと、ホームでは基本的に現金の取り扱いは行っていない。自己管理の希望がある場合はその都度預かる様にして自身でお金を管理できるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族様と手紙のやり取りや、電話連絡にて近況報告できるように支援している。携帯電話を持ち込まれ、家族様と連絡をとっている利用者様もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの照明等、暗すぎたり明るすぎないように注意している。ホール・各居室の温度も、その都度空調を調整し利用者様にとって適温となるように注意している。美化委員を設け、ホーム内の環境美化を図り利用者様が居心地よく過ごせるように努めている。また、季節に合わせた壁面構成を考え季節感を感じれるように努めている。	
			(外部評価) 明るく広いリビングにはテーブル席とソファ席があり、オープンキッチンからは調理の様子や匂いを感じることができる。リビングからは居室を見渡せるため、職員がどこにいても利用者を見守ることができ、利用者は思い思いの場所で安心してくつろいでいる。また、壁には折り紙の紫陽花が飾られており、季節が感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアに2箇所ソファを置き、独りになれたり、テーブルの座席位置を工夫するなどして、気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるように努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整理ダンスは備えてあるが、仏壇や棚・テレビなど使い慣れた物や好みの物の持ち込みも自由にしており、利用者様が居心地良く過ごせるように配慮している。	
			(外部評価) 居室には十分な広さの収納場所があり、きちんと整理整頓されておりすっきりした感じを受ける。備え付けられた家具の他に、テレビや仏壇、自宅で使用していた物等が持ち込まれているほか、壁にも利用者の好みの物が飾られており居心地のいい空間となっている。また、レース編みの本や手編みの人形が置かれている居室もあり、利用者の個性に応じた部屋づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり目印をつけるなどして、認識間違いを最小限にする環境整備に努めている。また、利用者様の「できること」や「わかること」の把握に努め、環境整備に活かすように心掛けている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	ファミリーケア
事業所名	グループホームいまづ
所在地	愛媛県松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	平成 28年 5月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 6月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が理念である「温」を目指し家庭的でぬくもりあるサービスが提供出来る様、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスやサービス付高齢者住宅等がある複合型の施設の2階部分が事業所になっている。各ユニットの入り口は開放されており、ユニット間も自由に入出りができる。職員は理念に「温」を掲げ、「目配り、気配り、こころ配り」を目標に、利用者が温もりを感じるケアに努めている。近くの幼稚園と交流があり、事業所で行われる夏祭りには地域の方が多く参加している。事業所では手作りの料理を楽しんでもらいたいと考え、各ユニットで調理をしている。医療面では、3か所の協力医療機関と連携が取れており、利用者や家族は安心して適切な医療を受けることができている。職員は事業所内外の研修に積極的に参加してサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいまづ

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)
氏名 岡本 信雄

評価完了日 平成 28 年 5 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員一人ひとりが理念に沿った温かい介護の実現に向け、申し送り等にて理念を共有し、日々のケアにあたっている。</p> <p>(外部評価) 開設当時の理念を大切に継承している。理念は、玄関やユニット内相談室等に掲示しており、誰でも見ることができる。理念の「温」の一字には深い思いが込められており、職員は理念に沿って「目配り、気配り、こころ配り」という職員目標を掲げて具体化し、利用者が温もりを感じて過ごしてもらえるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の幼稚園と交流、近所のお祭りなど地域行事・奉仕活動に参加したり、買い物等は近所のスーパーを利用させていただくことで、日常的に関わっている。</p> <p>(外部評価) 散歩をしていると近所の方が声をかけてくれたり、事業所開催の夏祭りに地域の方が多数参加してくれるなど、関係が深まっている。近くの幼稚園のひな祭りや運動会に招かれて交流しており、利用者の楽しみとなっている。また、事業所は「シニアまもるくん」として地域の相談所になると共に、福祉避難所としての指定を受け、地区合同災害避難訓練にも参加して協力体制づくりに努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方に対し法人内の防災士を中心に防災訓練に参加したり雑賀時の避難施設にも指定されている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1回定期的に運営推進会議を開催し、事業所内の取り組みの報告や、市介護保険課・地域包括支援センターとの意見交換や相談をしたり助言を受けたりしている。会議録を職員に閲覧してもらいサービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議で得られた助言をもとに、地区民生委員や町内会長、公民館長、夏祭りに参加している地域の方等に重ねて参加を依頼し、今以上に情報交換や相互理解が深まる会議になることを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や地域住民、市や地域包括支援センターの職員等が参加して、2か月に1回開催している。会議では事業所の近況や行事報告を行うほか、職員の研修報告を行って意見交換をしている。管理者はより多くの家族や住民の参加について、会議の議題として取り上げ、助言を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター西地区の勉強会に参加したり、運営推進会議の際に報告・相談している。困った事例の際には随時、市介護保険課に報告・相談し助言をもらうようにしている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の状況を知ってもらっているほか、気軽に連絡を取れる関係づくりをしている。地域包括支援センターが開催する事業所連絡会に参加して情報交換を行ったり、困難事例について相談し、協力して支援を行うなど連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人内研修への参加や事業所内研修として勉強会を行い、カンファレンスや申し送りを通じて身体拘束廃止について話し合いの機会を持っている。また、事業所内にはマニュアルがあり閲覧できるようになっており、禁止の対象となる具体的な行為の正しい理解や、身体拘束をしないケアに取り組んで	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作成し、年に1回勉強会を行って職員全員が理解を深め、その実践に努めている。外部の研修にも参加し、職員に伝達して共有している。転倒の危険が予測される利用者には、センサーマットを活用して危険を回避するよう工夫している。また、日中玄関は開放しており、ユニット入口にセンサーを設置して見守るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内研修や事業所内研修を実践している。また、事業所内でのミーティングやマニュアルの閲覧などにより虐待防止について理解を深め、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在該当する方はいないが、必要と考えられる場合には職員に説明し理解を深めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に入院・退去・利用料金・加算・看取り(延命、緊急時)について、ホームの方針をご本人様・ご家族様に説明し納得を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には、訪問時や電話などで日々の生活の様子を報告し、相談できる関係づくりに努めている。利用者様や家族等の意見、要望を運営に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 面会時に職員から声をかけて家族に状態を報告し、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めており、出された意見には迅速に対応している。また、毎月担当者が利用者の様子を手紙に書いて家族に送るほか、面会になかなか来られない家族には電話で近況を報告し、家族関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回全体会議を実施しており職員の意見を聴く機会を設けている。またその時々職員の体調や困っていることなど話しやすい関係・信頼作りに努め、コミュニケーションを密にし、要望や不満などを聞く環境を整える。</p> <p>(外部評価) 月1回開催する全体会には職員全員が参加することを原則としており、意見や要望を伝える機会となっている。ケア内容についての提案等は都度各ユニット主任に伝え、ユニット会でも意見交換ができています。管理者は年2回個人面談を実施し、悩み相談にのったり、意欲向上につながるよう配慮している。事業所は計画的に研修を行い、資格手当等就労環境を整えており、職員も意欲的にスキルアップに取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 年2回評価シートを活用し、グループ目標・個人目標・半期の取り組みを個々で設定し、目標達成に向けての日ごろの努力や具体的な実績について評価するようにしている。また、休みや有給休暇についても希望を受け入れる体制をとっている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 事業所内外の研修に積極的に参加するように促している。法人内研修については月1回開催し、職員の知識・技術の習得・向上に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 社会福祉協議会・地域包括支援センターが開催する研修に参加し、同業者との交流を図るように努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 今までの生活歴や現在の状況、要望などを細かく聞き取りをし、本人様に安心して利用して頂ける関係づくりに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に可能な限り話し合いを行い、現在の状況・要望等を聞くようにしている。入居後も面会時などに話ができる機会を持ち、アセスメントを十分行い暫定プランに反映できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問でのアセスメント情報をもとに職員間で話し合いを持ち、本人様・家族様等の実情や要望の把握に努め、事業所としてできる限りの対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアする側・される側という観点は持たず、みんなで努力し共に生活していけるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の生活の様子を来訪時や電話や手紙等で報告し、相談しながらケアを行って行くことで、家族の方にも協力してもらえよう働きかけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様がずっと通っていた美容室に行けるように支援したり、 (外部評価) 地元の方が多く入居しており、近所の方や併設事業所で知り合った方などが訪ねて来たり、家族と一緒に外出し理容店や美容院などに行く利用者もあり、家族の協力を得ながら馴染みの場所等と関係が途切れないよう支援している。また、併設事業所で行事がある際は出向いて交流しており、馴染みの関係が築けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールテーブルへの着席位置などを工夫し、食事やおやつの時間等を利用して利用者様同士で話をできる機会を増やすように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用が終了した後も、必要に応じてその後の相談に応じる体制をとるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、言葉や表情から把握するよう努めている。また、本人様が、「どうしたいか」を確認し、選んで頂けるように支援する。 (外部評価) 入居時に思いや意向を聞き取るほか、日頃の会話、表情や行動等で把握するよう努めている。また、新たに得られた情報は、介護記録に記載して申し送りやミーティング等で伝えて職員同士で共有している。職員は、利用者の意向を尊重し反映されるよう声かけに努め、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問や入居前の担当ケアマネからのアセスメント情報をもとに今までの生活歴や現在の状況・サービス利用に至った経過を把握するよう努めている。また、ホームに入ってから、それまでの生活に沿って日々の暮らしができるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックを行い、その日の体調や状態を把握し各利用者様にあわせた声かけを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様・家族様の要望をふまえ、職員間で課題やケアのあり方についてカンファレンスを持ち、計画作成担当者がそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価) 利用者の担当を決めており、話し合って介護計画を作成している。介護記録に介護計画の実施状況を記録し、毎月モニタリングを行って、職員全員が把握して共有しているほか、利用者の状態の変化に応じてその都度介護計画を変更し、3か月に1回見直している。また、介護記録は困難事例等に対し、職員間で話し合い協力しながらケアを行っている様子がよく分かる内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子の変化を介護記録に記入している。介護計画に対する職員の対応も記入し対応の見直しに反映させている。申し送りノートも記入し職員間で情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズに応じて検討・対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容のサービスの利用をしている。また運営推進会議等で地域の方に参加して頂き交流を図ることで必要に応じて力を借りられる様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 今までかかっていた医療機関に引き続き通院」している方も いるが指定の特にない方は本人、家族様の同意を得て3つの 医療機関より選択して頂き往診にて対応している。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診することがで きるが、ほとんどの利用者が3か所の協力医療機関をかかり つけ医とし往診している。また、それぞれのかかりつけ医と 医療連携が取れているほか、訪問歯科診療も利用でき、利用 者にも喜ばれており、家族も安心している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職を配置している。毎日バイタル測定を行い、健康状態 や状態変化などの把握をし、支援を行えるようにしている。 また、看護職と介護職の連携を密にし、報告・相談できる環 境となっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は情報提供書を作成し医療機関に提出している。入院 後は、定期的にお見舞いに行き、ご家族様と連絡を取りあっ たり、入院先とも電話等で確認と取って状況把握に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人様・家族様に意向を伺い、重度化や終末期に対 する方針を説明している。状況に変化が起きた場合は家族 様・主治医と話し合い方針を決定し、職員に伝達しチームで 支援して行くように努める。 (外部評価) 終末期のケアについて利用者と家族には、在宅医療に熱心 に取り組むかかりつけ医と連携し、利用者の状態の変化に応じ て話し合いながら最善のケアを行うことを説明し、入居時に 同意を得ている。また、管理者は職員研修にも力を注いでお り、看取りの経験のない職員の不安を払拭し資質が向上する よう努めている。	最近容態が急変した利用者が相次ぎ、管理者は職員教 育の必要性を痛感しているが、終末期はそれぞれ違っ た対応が求められるため、終末期のケアについて職員 教育を継続して行うとともに、急変時の対応等につい ての研修を行うなどスキルアップに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 法人内研修で定期的に救急法の勉強会を行い、急変や事故発生時に備えて技術の習得に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回、防火・避難訓練を行っている。また、法人からも地域の防災訓練などに参加している。警備保障会社とも連携している。災害に備えて備蓄リストの作成や、定期的に業者の方に設備の点検をしてもらっている。	
			(外部評価) 年2回消防署立ち会いのもと併設事業所と合同で避難訓練を実施しており、近く夜間想定での避難訓練を実施する予定である。また、防災士の資格を持つ職員が、地域防災士の集まりに参加しており、地区合同災害避難訓練に参加するなど協力関係を構築しているほか、福祉避難所の指定を受けているため、地域避難者分を含めた備蓄品を整えているが、十分ではないので今後はさらに充実させることを考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉使い・接遇マナー等の現任研修をおこない、ホームの理念である「温」＝暖かいケアを目標に利用者様のプライバシー保護や尊厳を守りながら日々のケアにあたっている。	
			(外部評価) 毎年内部研修のテーマに設定しており、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないケアに努めることができている。入浴時同性介助を希望する利用者には、職員を交代したりオムツ交換は居室でドアを閉めて行うなど配慮しているほか、言葉遣いや接し方にも留意し、不適切だと気が付いた時は互いに注意し合うようにしている。また、ケース記録等は書庫に厳重に保管するなど、個人情報の保護は徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の発言・表情や反応と注意深く観察し、いくつかの選択肢を用意しその中から選んでもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れは決まっているが、その日の体調や状態をみて、ご本人様の希望や自己決定を優先しての支援を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問の美容室利用の際、個人の希望でカットやカラー、パーマなどあててもらっている。訪問の美容室以外にも、自身が行きたい美容室に外出できるよう支援している。自身で判断できる利用者様には、自分で選んだもの・気に入ったものを身につけて頂けるよう個別に支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭き等できることをして頂いている。食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむことができるように配慮している。	
			(外部評価) 事業所では手作りの料理を楽しんでもらいたいと考え、各ユニットで調理をしている。利用者の希望を聞いて、職員が交替で献立を考え食材の買い物をしている。また、利用者の状態に応じて食形態を変える等の工夫をしたり、拒食傾向のある利用者に対しては、食事中はずっと寄り添うなど丁寧に接している。食事介助を必要とする利用者が増えているため、職員と一緒に食事をするのが難しくなっているが、ゆったりと和やかな雰囲気での食事風景は保っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々にあった量や形態で食事を提供している。また、食事・水分摂取量を記録し、水分・栄養状態の把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自身でできる利用者様には声掛けにて行ってもらっている。口腔ケアは起床時、食後、就寝前に行っている。(義歯は洗浄している。)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの身体状態・排泄パターンを職員が把握し、時間をみてオムツ交換・トイレへの声かけやトイレ誘導を行っている。可能な利用者様には出来るだけトイレでの排泄をできるように支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、日中はなるべくトイレで排泄できるよう支援している。夜間見守りを必要とする利用者には、トイレまで付き添って介助を行い、おむつを使用している利用者には睡眠をさまたげないよう適切な排泄用品を選択する工夫をしている。また、排便回数等もチェックし状態を把握し、医師と相談の上服薬支援を行うなど便秘にならないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 事故において食物繊維の多い食べ物をなるべく多く提供できるように声掛け、水分摂取量にも注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日や入浴時間の希望など聞くようにしている。また、その日の体調・利用者様の心情にあわせて入浴日を変更できるようにしている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週2回を基本として入浴できるよう支援しており、その日の利用者の体調に応じて入浴日を変更したり、同性介助を希望する場合は対応するよう配慮している。浴槽への移動が困難な利用者は福祉用具を活用したり、2人体制で介助を行なうなど、安心して入浴できるよう支援している。立位がとれない利用者は1階デイサービスの機械浴を利用することもできる。また、お風呂が苦手な利用者には無理強いをせず楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう気を付け、できるだけ日中は臥床して頂きながら、個々のペースで居室で休息がとれるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋ファイルを全利用者様分作成し、状態の変化がある場合には、主治医へ相談し指示を仰ぎながら薬の調整を行うようにしている。薬の内容が変わった時は申し送りノートに記入し、職員全員で情報共有できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) コミュニケーションを大事にしながら、可能な利用者様には食事の下ごしらえや洗濯物などに参加して頂き、役割を持つことで日々の生活に張り合いが持てるように配慮している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望により家族様と外出・外泊できるように支援している。季節に沿った外出行事(お花見等)を行っている。 (外部評価) 事業所周辺には神社があり、天気の良い日は近所に散歩に出かけることが多く、顔見知りになった近所の方が声をかけてくれる。利用者の重度化がすすみ、全員参加での遠出は難しくなっているが、季節の花を楽しむためグループに分かれて出かけるなど利用者全員が外出できるように支援している。また、喫茶店、回転寿司や買い物等にでかけたり、家族が付き添って外出するなど利用者の要望に応じて出かけられるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様の了解のもと、ホームでは基本的に現金の取り扱いは行っていない。自己管理の希望がある場合はその都度預かるようにして自身でお金を管理できるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族様と手紙のやり取りや、電話連絡にて近状報告できるように支援している。携帯電話を持ち込まれ、家族様と連絡を取っている利用者様もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホールの照明等、暗すぎたり明るすぎないように注意している。ホール・各居室の温度も、その都度空調を調整し利用者様にとって適温となるように注意している。美化委員を設け、ホーム内の環境美化を図り利用者様が居心地良く過ごせるように努めている。また、季節に合わせた壁面構成を考え季節感を感じれるように努めている。</p> <p>(外部評価) 明るく広いリビングにはテーブル席とソファ席があり、オープンキッチンからは調理の様子や匂いを感じることが出来る。リビングからは居室を見渡せるため、職員がどこにいても利用者を見守ることができ、利用者は思い思いの場所で安心してくつろいでいる。また、壁には折り紙の紫陽花が飾られており、季節が感じられるよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアに2か所ソファを置き、独りになれたり、テーブルの座席位置を工夫するなどして、気の合った利用者様同士で思い思いに過ごせるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 整理ダンスは備えてあるが、仏壇や棚・テレビなど使い慣れた物や好みの物を持ち込みも自由にしており利用者様が居心地良く過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室には十分な広さの収納場所があり、きちんと整理整頓されておりすっきりした感じを受ける。備え付けられた家具の他に、テレビや仏壇、自宅で使用していた物等が持ち込まれているほか、壁にも利用者の好みの物が飾られており居心地のいい空間となっている。また、レース編みの本や手編みの人形が置かれている居室もあり、利用者の個性に応じた部屋づくりになっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり目印を付けるなどして、認識間違いを最小限にする環境整備に努めている。また、利用者様の「できること」や「わかること」の把握に努め、環境整備に活かすように心がけている。</p>	